



ニュースレター定期配信のお知らせ

平素より医局関連教務、病診連携等に対し格別なご配慮を賜り誠にありがとうございます。このたび、浜松医大脳神経内科ニュースレターを発刊することとなりました。

大学はなにをやっているのかわからない、というご意見を多数頂き、大学と関連施設や関連施設同士の連携が図れるような情報を提供していきたいと思っておりますので、未永くよろしくお願いたします。

特任教授就任



すでに皆様ご存じとは思いますが、5月1日から先代の宮嶋教授の後任として、わたくし中村友彦が附属病院脳神経内科特任教授として着任しました。同時に神経・難病センター長も拝命致しました。

わたしは中学・高校（と浪人）を横浜の地ですごしたのち、1995年に名古屋大学を卒業しました。急性期病院での様々な経験を経て、2003年大学院で神経変性疾患の心血管系を中心とした自律神経の研究を始めました。また同時に脳波や針筋電図といった神経生理検査を数多くこなして参りました。これらの技術を生かして浜松医大で若手医師を対象として脳波判読や神経生理検査のレクチャーを開始しました。臨床神経生理学会の教育施設認定を目指し、当院で教育を受けた医師は臨床神経生理学会の専門医受験資格が得られるように準備中です。

またパーキンソン病のDBS適応について脳神経外科をのミニカンファの開催も始めました。少しずつですが、各科との連携もカンファレンス等を通して広げていく予定です。今後令和4年度に神経・難病センターが当院で完成します。その際にはヘッドアップティルト試験もできるような体制を整え、パーキンソン病など神経変性疾患の患者さんに対する受け入れも増やしていきます。

脳神経内科が第一内科から独立して3か月が過ぎようとしております。現状では実態としては以前と変わらず、第一内科として学生ローテート、また合同カンファレンスも継続しております。医局も第一内科に部屋があります。しばらくしたら医局が新しい場所に移動する予定ですが、診療、教育体制には大きな変化はありません。

診断や治療でお困りの神経難病の患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひともご紹介くださいますようお願いいたします。

浜松医科大学医学部附属病院脳神経内科特任教授 中村友彦

Cerebellar ataxia with neuropathy and vestibular areflexia syndrome (CANVAS) 疑いの患者さん募集中

大学院2年目の渡邊一樹です。

私は水窪地方の脊髄小脳変性症家系の遺伝子解析を行い、CANVASであることを解明しました。また、当院の別の患者様もCANVASであることがわかりました。

AR型遺伝形式のため個発例に見え、中年～高齢発症の運動失調やニューロパチーが主な症状です。決して珍しい疾患ではありませんので、MSA疑いの症例や原因のわからないニューロパチーの中に紛れていると思われます。

簡単な遺伝子検査でスクリーニングが可能ですので、心当たりのある先生やご質問のある先生は私までご連絡ください。

連絡先：渡邊一樹 (kw1003@hama-med.ac.jp)

現在3年目後期研修医2名が 当院で研修中です

神村先生



神村純と申します。生まれも育ちも浜松です。趣味は野球とゴルフです。よろしくお願いいたします。

寺澤先生



後期研修医の寺澤美晴と申します。浜松医大卒で、学生の頃から脳神経内科医に憧れていました。ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

浜松医大関連以外の方で配信希望の先生がいらっしゃいましたらご連絡ください。

ご質問・ご意見もよろしくお願いいたします。 脳神経内科 武内智康 bunai.t@hama-med.ac.jp